

# 中部高等学術研究所 年報

2022 年度



# 目次

1. 中部高等学術研究所とは
  1. 1. 概要
  1. 2. 研究内容の変遷・過去の出版物
  1. 3. 研究所情報（所在地、組織体系）
  1. 4. 所員（2022 年度）
  
2. 所員（専任）の研究教育活動
  
3. 2022 年度に開催された研究会・シンポジウム等
  
4. 国際ESD・SDGsセンター
  4. 1. 国際ESD・SDGsセンター主催・共催事業
    - (1) 第13回中部大学ESD・SDGs研究・活動発表会
    - (2) 「中部大学ESD・SDGsシンポジウム」の開催(第27回、第28回)
    - (3) 「中部大学ESD通信」の発行
  4. 2. 国際ESD・SDGsセンター地域連携事業
    - (1) 中部ESD拠点協議会主催「中部サステナ政策塾」活動
    - (2) 中部ESD拠点主催「祭りと生物多様性SDGsプロジェクト」  
(トヨタ環境活動助成プログラム)の実施
    - (3) 中部ESD拠点 その他の活動
    - (4) 愛知学長懇話会サステナビリティ・プロジェクトの実施支援
    - (5) いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト
  
5. 国際GISセンター
  5. 1. 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点
  5. 2. アジアサマースクール

## 1. 中部高等学術研究所とは

### 1. 1. 概要

中部高等学術研究所は、1996年に大学直属の研究所として、また私立大学ではわが国初の大学共同利用研究所として設置された。以来「学問の再構築」を目的とした文系・理系の枠にとらわれない共同研究拠点として活動を行い、学内のみならず国内外の多くの学外研究者が研究活動に関与してきた。これまで、「アジアにおける伝統文化」、「人間安全保障」、「学問の再構築：はかる」、「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」等をテーマとして共同研究が行われた。その成果は、ユネスコ大学連合共同研究賞の受賞（2003年）、「<はかる>科学」（2007年 中公新書）や「変容する現代の大学教育を考える」（2012 風媒社）の上梓に繋がった。

2007年より新しいテーマとして、「持続可能な発展のための教育 (Education for Sustainable Development :ESD)」を掲げ、この活動を中部大学の一つの核とすべく2009年に「国際ESDセンター」を研究所の附置センターとして開設した。更に2011年には、地理情報システム (Geographic Information System :GIS) の研究推進拠点として「国際GISセンター」を附置センターとして開設した。このセンターは、2014年に文部科学省より共同利用・共同研究拠点として認定された。中部高等学術研究所は、「持続可能な発展」が21世紀の人間社会の基本的な価値観になるとの認識に立ち研究を展開している。2019年においては、国連ESDの10年が終了しSDGsが開始されたことに合わせて、「国際ESDセンター」を「国際ESD・SDGsセンター」へと名称変更した。

## 1. 2. 研究内容の変遷・過去の出版物

### (1) 研究内容の変遷

中部高等学術研究所（以下「中高研」）は、1996年に、大学直属の研究所として設置された。研究所のその後を顧みると、大きく6つの時期に区分できる。

第1期は、加藤秀俊所長の時代（1996年4月～2001年3月）で、アジアに関する事項が主な研究テーマになっている。

第2期は、武者小路公秀所長（2001年4月～2003年3月）のもと人間の安全保障が中心課題に採用されている。

第3期は、飯吉厚夫総長が所長に就任した時期（2003年4月～2011年5月）からである。新しい研究テーマとして「学問の再構築」を取り上げ、その第一歩として文理融合的テーマ「はかる」が選択され、23回の研究会を経て、「はかる—はかりはかれる人と世界—（上下）」が出版された。また、同時に「<はかる>科学」が2007年に中公新書の1冊として上梓された。

この「はかる」の後継研究として、「高等教育を考える—アウトカムズを中心に—」と「春日井コモンズ研究会」（テーマとして「いのち」と「科学と私」が採択されている）が発足している。

第4期は、2007年より新しい活動として、「持続可能な発展のための教育(Education for Sustainable Development :ESD)」が取り上げられている。ESDの活動は、2002年のヨハネスブルグでの第2回地球サミットでわが国が提案し、それが採択されて、世界的に活動が展開されている事業である。中部大学は、「持続可能な発展」が、21世紀の人間社会の基本的な価値観になるとの認識に立ち、中高研で、それを基盤に、現在の学問体系を再構築しようとの意志をもって研究を展開してきた。

第5期は、稲崎一郎所長（2011年6月～2015年3月）のもと、中高研と密接な連携を保って活動してきた「国際ESDセンター」（センター長 稲崎一郎）を中高研の付置センターとし、2011年度から中高研の付置センターとして発足した「国際GISセンター」（センター長 福井弘道教授）と合わせて2つのセンターを包含する研究所となった。

これら2つのセンターの有機的な連携を通して、「持続可能性」を基盤にした学問の再構築と地理情報システム(GIS)を積極的に利用した新しい実学の推進拠点として中高研の研究活動は展開している。また、2011年9月にはアジア工科大学院との学術協力に関する提携を結び、国際的な展開も図っている。

第6期は、現在の福井弘道所長（2015年4月～）のもと、ESDとGISの二つのセンターの連携をさらに積極的に進めるべく、プロジェクトベースの共同研究もおこなわれるようになった。流域圏管理からSDGsの指標の可視化などをはじめ、デジタルアースを用いた情報・知識プラットフォームを構築して、地球的視野から地域のデザインを考え、環境や防災・減災など問題複合体に取り組む研究を深化させている。

## (2) 過去の出版物

### 1) 単行本・新書

- ◎ 『RICE in asia –Lives of Seven Farmers–』  
(2000年出版 A PRELUDE Book under a Unitwin-Unesco Project)
- ◎ 『「コメとアジアのひとびと」 –7人の稲作農民の生活史–』 (加藤秀俊 編)  
(2003年3月出版 ユネスコ(国連教育科学文化機関) UNITWIN(大学連合共同研究) 賞受賞)
- ◎ 『ラオスの楽器』 (藤井知昭監修)  
(2005年出版 中部高等学術研究所)
- ◎ 『はかる–はかりはかられる人と世界』 上下2巻 (阪上孝、長島昭編)  
(2004年6月~2007年1月 中部高等学術研究所共同研究会報告集)
- ◎ 『<はかる>科学 計・測・量・謀.....はかるをめぐる12話』 (阪上孝、後藤武編) 中公新書、中央公論新社  
(2007年10月出版 中部大学中部高等学術研究所創設10周年記念)
- ◎ 『高等教育のアウトカムズを考える–中部高等学術研究所 高等教育アウトカムズ研究会から–』  
(中部高等学術研究所編)  
(2010年12月出版、2005年6月~2006年3月、2007年5月~2008年10月 中部高等学術研究所共同研究会報告集)
- ◎ 『科学と“私”–科学技術社会における個人性の回復–』 (長島昭編)  
(2011年2月発行、2008年3月~2010年3月 中部高等学術研究所共同研究会報告集)
- ◎ 『変容する現代の大学教育を考える–学問の再構築を目指して–』 (中部高等学術研究所編) 風媒社  
(2012年3月出版)
- ◎ 『持続可能な社会をめざして–「未来」をつくるESD』 (飯吉厚夫、福井弘道、稲崎一郎編) 平凡社  
(2014年9月出版)

### 2) Studies Forum Series

- ◎01. 『21世紀はアジアの世紀か?』  
(1997年7月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎02. 『変貌するアジアの農村』  
(1997年10月 オープンフォーラム)
- ◎03. 『タイにおけるコミュニケーション・ギャップ』  
(1998年2月 中部高等学術研究所研究会)

- ◎04. 『アジア諸都市における伝統文化とその変容～ポピュラー・カルチャーの形成～』  
(1998年2月 中部高等学術研究所共同研究会) 24,
- ◎05. 『アジア主義と普遍主義 — 文明間の衝突と対話』  
(1999年7月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎06. 『共生のシステムを求めて～ 東南アジアを手がかりに ～』  
(1999年11月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎07. 『諸民族の音文化（音楽）研究の課題と展望～ 新たな世紀を視座に入れつつ ～』  
(2000年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎08. 『宗教と国家統合～ ミャンマー連邦シャン州クン地区の事例の意味するもの ～』  
(2000年6月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎09. 『音楽（音文化）研究の課題と展望』  
(2001年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎10. 第1回人間安全保障研究会  
『「人間安全保障」の研究と実践』  
第2回人間安全保障研究会  
『「人間安全保障」の操作的定義をめざして』  
(2001年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎11. 『イスラーム文化の諸相』  
(2002年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎12. 第3回人間安全保障研究会  
『「人間安全保障」の社会的・文化人類学的アプローチ』  
(2002年4月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎13. 第4回人間安全保障研究会  
『公衆衛生と「人間安全保障」』  
(2002年5月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎14. 第5回人間安全保障研究会  
『空とマンダラ』  
(2002年7月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎15. 『人間と自然の共通の「安全保障」』  
(2002年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎16. 第6回人間安全保障研究会  
『宗教と「人間安全保障」』  
(2002年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎17. 『照葉樹林文化論をめぐって』  
(2002年10月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎18. 第7回人間安全保障研究会

- 『科学技術と「人間安全保障」』  
(2002年12月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎19. 『アジアにおける文化クラスター(I)～ ラーマーヤナの地域変容 ～』  
(2003年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎20. 第8回人間安全保障研究会  
『人間安全保障教育』  
(2003年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎21. 第9回人間安全保障研究会  
『防災と「人間安全保障」』  
(2003年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎22. 第10回人間安全保障研究会  
『人間の安全保障委員会最終報告書について』  
(2003年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎23. 『南アジア北部と日本にみる人生儀礼の比較研究』  
(2003年7月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎24. 第11回人間安全保障研究会  
『「人間安全保障」とリスク』  
(2003年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎25. 『アジアにおける文化クラスター(II)～ 現代都市文化の変容 ～』  
(2004年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎26. 第12回人間安全保障研究会  
『「人間安全保障」研究の課題と展望』  
(2004年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎27. 第1回共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『“はかる”における相対と絶対共同研究』  
(2004年6月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎28. 第2回共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『人間をはかる、社会をはかる(1)』  
(2004年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎29. 第3回共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『科学技術史における感性と計量』  
(2004年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎30. 第4回共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『世界をはかる“メタファー”：認知意味論の立場から』  
(2004年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎31. 第5回共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」

- 『古代シュメールでどのように穀物が量られ、土地が測られたか』  
(2004年11月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎32. 第6回 共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『世界をコントロールする“メタファー”』  
(2004年12月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎33. 第7回 共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『江戸の珠算文化とその情報源共同研究』  
(2005年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎34. 共同研究「アジアの文化クラスター(Ⅲ)」  
『時代認識の変容－英雄・カリスマ・アイドル像をめぐって－』  
(2005年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎35. 第8回 共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『生物現象をはかる－モデル化と数量化の展開－』  
(2005年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎36. 第9回 共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『学問の再構築について』  
(2005年4月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎37. 第10回 共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『美をはかる(?)』  
(2005年5月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎38. 第1回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」  
『教育評価方法の変遷と現状 倫理教育のアウトカムズ評価の事例と方法について』  
(平成17年6月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎39. 第11回 共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『空間をはかる』  
(2005年6月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎40. 第12回 共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『数量経済史という方法』  
(2005年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎41. 第13回 共同研究「はかる－はかりはかられる人と世界」  
『健康をはかる、病気をはかる』  
(2005年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎42. 第2回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」  
『技術者倫理から科学技術倫理まで：現状と概念の整理－アウトカムズとは？ 研究評価の事例から－』  
(2005年10月 中部高等学術研究所共同研究会)



- ◎43.第14回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『地表をはかる』  
(2005年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎44.『アジアにおける文化クラスター(Ⅳ)—叙事詩の系譜と変容—』  
(2006年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎45.第15回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『こころをはかる：複雑系としての脳』  
(2006年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎46.第16回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『環境をはかる：技術者の視点』  
(2006年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎47.第3回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」  
『エンジニアリングデザインと技術者倫理』  
(2006年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎48.第17回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『気と脈で国土をはかる』  
(2006年4月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎49.第18回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『アフォーダンスという単位』  
(2006年5月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎50.第19回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『キログラムの再定義をめぐる最近の動き』  
(2006年6月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎51.第20回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『心を読み、はかり、つなぐ—アラビアからインドへ—』  
(2006年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎52.共同研究「地域の持続可能な発展のための教育と人間安全保障」研究会  
(2006年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎53.第21回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『罪の重さをはかる』  
(2006年11月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎54.第22回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『文明／野蛮をはかる』  
(2006年11月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎55.第23回 共同研究「はかる—はかりはかられる人と世界」  
『「文化の豊かさ」がはかれるか』

(2007年1月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎56.第1回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『大学に先生は必要か』

(2007年5月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎57.第2回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『大学の機能と高等教育のパラダイム』

(2007年7月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎58.第3回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『工学部の教育改革と教育におけるアウトカムズ』

(2007年9月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎59.共同研究「持続可能な発展のための教育 (ESD) —第1回～第3回—」研究会  
(2007年7月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎60.第4回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『教育のアウトカムズを向上させるためのささやかな試み』

(2007年10月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎61.第5回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『わが国の科学技術政策の課題』

(2007年12月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎62.第6回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『学部教育が抱える問題への対応』

(2008年3月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎63.プレ研究会 共同研究「春日井コモンズ」研究会

『コモンズの再構築』

『いのち—植物・動物・人間、科学・技術・文化—』

『いまだに「私」はデータをまとめられるか?—<ポストモダン>にかんする1つの  
思想史的考察』

(2008年3月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎64.第7回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『日本の科学／技術はどこへ行くのか』

(2008年4月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎65.第1回 共同研究「春日井コモンズ」研究会

『科学と〈私〉—個体の消滅と復活』

(2008年6月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎66.第8回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『『教養』教育は可能か?』

(2008年6月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎67.第2回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『都市狩猟採集民の家—浅草・隅田川に建つ0円ハウス—』  
(2008年6月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎68.第9回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『中央教育審議会報告「学士課程教育の構築に向けて」を読んで—日米両国における  
大学ビジョンの比較を中心に—』  
(2008年8月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎69.第3回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『「いのち」と「ヒト」の原点を考える』  
(2008年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎70.第10回 共同研究 高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会  
『新しい医科学への道—高橋暁正の目指したもの—』  
(2008年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎71.第4回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『中国思想における「いのち」』  
(2009年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎72. 第5回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『“生きている”を見つめ“生きる”を考える』  
(2009年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎73. 第6回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『数量化社会のほころびと再生—“私”の視点から』  
(2009年8月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎74. 第7回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『科学と「私」—問題の系譜』  
(2010年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎75. 第8回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『自己主張としての文学の役割』  
(2010年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎76. 第9回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『メディア技術は、どのような「コモンズ(共)」を出現させることができるか』  
(2010年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎77. 第10回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『個人識別に関わる情報処理技術』  
(2010年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎78. 第11回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『生命に目的はあるのか』

(2010年6月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎79. 第12回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『美術はいま何をやろうとしているのか—感覚の彼方・物質の彼方・行為の彼方—』  
(2010年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎80. 第13回 共同研究「春日井コモンズ」研究会  
『歴史学の終焉 —制度的歴史学の崩壊によせて—』  
(2010年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎81. 記念シンポジウム 春日井コモンズ  
『科学技術と個人』  
(2010年11月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎82. 第1回 共同研究「サステナビリティ研究会」  
『持続可能な地域』  
(2012年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎83. 第2回 共同研究「サステナビリティ研究会」  
『将来世代に優しい社会・環境を—エネルギー・環境問題を中心に—』  
(2012年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎85. 第4回 共同研究「サステナビリティ研究会」  
『東アジアの目で見える「グレーター・ナゴヤ」の戦略』  
(2013年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎89. 第8回 共同研究「サステナビリティ研究会」  
『都市の再生と河川—持続可能な発展をめざして—』  
(2013年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎90. 第9回 共同研究「サステナビリティ研究会」  
『地方政治は持続社会に貢献できるか?—犬山から飛騨へ、私の提言—』  
(2014年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎91. 第10回 共同研究「サステナビリティ研究会」  
『近代と未来のはざままで - 未来観の変遷と21世紀の課題』  
(2014年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎92. 第11回 共同研究「サステナビリティ研究会」  
『エコロジー、インダストリー、アートの観点から生物多様性に配慮したグランド  
(地)・デザイン〜生物多様保全という名のトポフォリア (場所愛)』  
(2014年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎93. 第1回 共同研究「寿命研究会」  
『無限か再生か—寿命をめぐる』  
(2014年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎94. 第2回 共同研究「寿命研究会」

- 『無限か再生かー17-18世紀における地球と人間の運命』  
(2014年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎95. 第3回 共同研究「寿命研究会」  
『無限か再生かー老年期の進化と人間社会の未来』  
(2014年12月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎96. 第4回 共同研究「寿命研究会」  
『無限か再生かー幸せと寿命ー現代幸福学入門』  
(2015年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎97. 第5回 共同研究「寿命研究会」  
『無限か再生かー時間次元の認知と寿命』  
(2015年5月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎98. 第5回 共同研究「寿命研究会」  
『無限か再生かー時間次元の認知と寿命』  
(2015年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎99. 第1回 共同研究「サステナブル流域水研究会」  
『東海地方における陸水の窒素循環・汚染の現状と課題』  
(2016年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎100. 第2回 共同研究「サステナブル流域水研究会」  
『流域再生を目指した自然共生型環境管理と水の質的改善』  
(2016年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎101. 第3回 共同研究「サステナブル流域水研究会」  
『都市・土地利用のデザインと水環境』  
(2017年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎102. 第4回 共同研究「サステナブル流域水研究会」  
『藤前干潟保全の歴史と現況を学ぶ』  
(2017年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎103. 第5回 共同研究「サステナブル流域水研究会」  
『総合型地圏水環境シュミレーション技術が描き出す流域水循環の動態』  
(2017年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎104. 第1回 共同研究「人文学の再構築」  
『ルネサンス期科学の歴史的意味』  
(2017年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎105. 中部大学共同講義  
『リーダーとしてのゴルバチョフ・今日のロシアとヨーロッパの理解の根底』  
(2017年4月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎106. 第2回 共同研究「人文学の再構築」

『啓蒙の世紀における人文知／再構成的学問から問題意識的学問への変化—歴史意識と人文科学』

(2019年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎107. 第3回 共同研究「人文学の再構築」

『水田洋先生に訊く—戦争と私と社会科学』

(2019年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎108. 第4回 共同研究「人文学の再構築」

『水田洋先生に訊くⅡ』

(2019年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎109. 第1回「日本のエネルギー政策を考える」研究会

『エネルギー問題を俯瞰する』

(2019年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎110. 第5回 共同研究「人文学の再構築」

『礼拝の自由』が切り開いた学問の新たな地平—知られざるナポレオンの功績

(2020年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎111. 第6回 共同研究「人文学の再構築」

『人文学の再構築に向けて』

(2020年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎112. 第7回 共同研究「人文学の再構築」

『人新世のかなたより—技術の射程、人間性のゆくえ』

(2022年2月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎114. 第9回 共同研究「人文学の再構築」

『社会改革思想と優生学思想の親和性—19世紀末からナチス時代へ』

(2022年1月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎115. 第10回 共同研究「人文学の再構築」

『環境経済学の方法論と課題』

(2021年12月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎116. 第11回 共同研究「人文学の再構築」

『"理解社会学"という挑戦—世紀転換期の社会科学の迷走から考える』

(2023年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎117. 第12回 共同研究「人文学の再構築」

『スピリチュアリティ・家族・『母』』

(2023年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎118. 第13回 共同研究「人文学の再構築」

『中東の諸紛争の起源について：植民地支配・冷戦構造の遺恨から考える』

(2023年3月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎119. 第14回 共同研究「人文学の再構築」

『チャールズ・テイラーの複合的近代化論の今日的意味—『世俗の時代』を讀解する』

(2023年3月発行 中部高等学術研究所共同研究)

3) 報告書

◎高山市SDGシンポジウム

高山市の未来を築くこれからのパートナーシップ

(2021年3月発行 中部大学国際ESD・SDGsセンター)

1. 3. 研究所情報（所在地、組織体系）

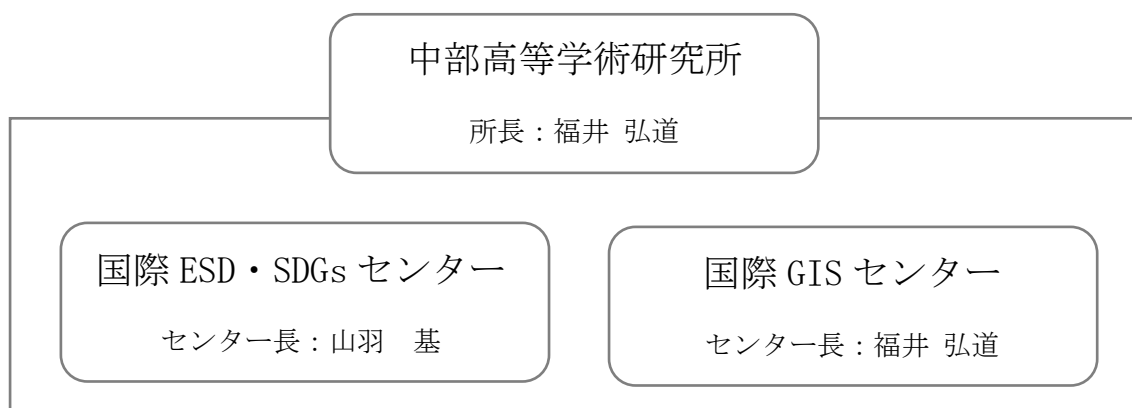
(1) 所在地等

所在地：〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200

設立年月日：1996年4月1日

所長：福井 弘道（中部大学中部高等学術研究所 教授/国際 GIS センター長）

(2) 組織体系



(3) HP

<http://de18.digitalasia.chubu.ac.jp/>



#### 1. 4. 所員（2022年度）

##### ◎ 所員教員

福井 弘道	副学長/中部高等学術研究所 所長/国際 GIS センター長
林 良嗣	持続発展・スマートシティ国際研究センター責任者/特定教授
渡部 展也	中部高等学術研究所 教授
竹島 喜芳	中部高等学術研究所 准教授
古澤 礼太	中部高等学術研究所 准教授
杉田 暁	中部高等学術研究所 准教授
上野 吉一	中部高等学術研究所 特任講師
川村 真也	中部高等学術研究所 特任講師
原 理史	中部高等学術研究所 非常勤研究員
杉山 範子	中部高等学術研究所 非常勤研究員

##### ◎ 所員教員（兼任）

山羽 基	教授（工学部建築学科、国際ESD・SDGsセンター長）
牛田 一成	兼任教授（応用生物学部環境生物科学科、応用生物学部長）
玉田 敦子	兼任教授（人文学部共通教育科教授）
松田 一希	兼任准教授（創発学術院准教授）
安本 晋也	兼任准教授（人文学部歴史地理学科准教授）

##### ◎ 客員教授

石田 芳弘	（元犬山市長、元衆議院議員）
岩本 渉	（国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長）
嘉田 由紀子	（元滋賀県知事）
小檜山 賢二	（慶應義塾大学名誉教授）
崎川 茂郎	（(株) ソフトブリッジ グローバルスタディーズ顧問）
嶋田 義仁	（元名古屋大学文学部教授）
高須 幸雄	（国際連合事務総長特別顧問（元国連事務次長））
長島 昭	（元中部高等学術研究所特任教授）
野中 ともよ	（ローマクラブ会員/NPO ガイア・イニシアティブ代表）
福和 信夫	（名古屋大学減災連携研究センター 特任教授/あいち・なごや強靱化共創センター長）
三島 憲一	（大阪大学名誉教授）
水田 洋	（名古屋大学名誉教授/学士院会員）
山内 睦文	（中部大学名誉教授）

安藤 隆穂 (元中部大学特任教授)

宗宮 弘明 (元中部大学学園顧問)

河村 公隆 (元中部大学教授)

## 2. 所員（専任）の研究教育活動

名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は 学会等の開催場所	発表年月
福井 弘道	B 1	共	Forest- RelatedSDGIssuesMonitoringfor Data- ScarceRegionsEmployingMachine LearningandRemoteSensing-ACase StudyforEnaCity,Japan	IEEEIGARSS2022Conferencepaper, DOI:10.1109/IGARSS46834.2022. 9883037	2022 年 7 月
	B 2	共	2021 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成 果報告会	GIS－理論と応用 31 巻,1 号,p65-72	2022 年 6 月
	B 2	共	低価格・小型な機載 RTK-GNSS と ACP 法を用いた UAV 写真測量の高精 度化	地理情報システム学会学術大会,31 巻, ROMBUNNO.P-30	2022 年 10 月
	B 2	共	深層学習による画像認識技術を用い たチョウ斑紋の地理的変異に関する 定量的考察	問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点 2021 年 度成果報告書,p47-52	2023 年 2 月
	B 2	共	アジアの活断層図のデジタルアース への投入と利用サービス向上	問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点 2021 年 度成果報告書,p109-113	2023 年 2 月
	B 2	共	複合的な自然環境便益の時空間評価 に関する基礎的研究	問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点 2021 年 度成果報告書,p117-120	2023 年 2 月
	B 2	共	ドローン固定翼機をもちいた有明海 の絶滅危惧種スナメリと人為的活動 の動的競合の可視化	問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点 2021 年 度成果報告書,p147-150	2023 年 2 月
	B 2	共	流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関 する研究 -伊勢・三河湾集水域の流域圏を事例 として-	問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点 2021 年 度成果報告書,p151-158	2023 年 2 月
	B 2	共	市民対話からの環境ガバナンスへ： 福島と愛知をつなぐ	問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点 2021 年 度成果報告書,p37-46	2023 年 2 月
B 2	共	マインドクライメート研究：必須 MC 観測変 数（EssentialVariablesofMindClimate） の抽出の検討	問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点 2021 年 度成果報告書,p53-57	2023 年 2 月	

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
福井 弘道	B 2	共	ローカル SDGs 指標に基づく施策議 論プログラムの ESD 活用研究（2 年 目）	問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点 2021 年 度成果報告書,p133-139	2023 年 2 月
	B 2	共	都市化指標と生物多様性指標の関 係性についての予備的研究 -中部地 域を事例として	環境情報科学,52 巻 1 号,p141	2023 年 3 月
	C 1	単	DigitalEarth:APlatformfortheSDGs andgreentransformationattheglobal andlocal	Keynoteonthe9thDigitalEarth SummitatChennai,India	2022 年 9 月
	C 1	共	低価格・小型な機載 RTK-GNSS と ACP 法を用いた UAV 写真測量の高精 度化	地理情報システム学会第 31 回地理情 報システム学会研究発表大会,Poster- 30	2022 年 10 月
	C 1	共	都市化指標と生物多様性指標の関 係性についての予備的研究 -中部地 域を事例として	2022 年度 環境情報科学研究発表大 会 (オンライン)	2022 年 12 月
	C 1	共	アジアの活断層図のデジタルアース への投入と利用サービスの向上アジ アのメガシティ地域を中心に	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	デジタル急峻地形 (2)	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	ドローン固定翼機をもちいた有明海 の絶滅危惧種スナメリと人為的活動 の動的競合の可視化	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	ローカル SDGs 指標に基づく施策議 論プログラムの ESD 活用研究（3 年 目）	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
福井 弘道	C 1	共	簡易 LiDAR による 3D デジタルマッ ピングとサイエンス・コミュニケー ションでの利活用	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	都道府県内の人間の安全保障指標 （HSI）の開発と DE 技術の適用－ SDGs の実践の効果的な計測のため に－宮城県から愛知県へ	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	複合的な自然環境便益の時空間評価 に関する基礎的研究	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関 する研究－流域圏ステークホルダー との協働に向けて－	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	拠点の今年度活動概要説明	2022 年度 中部大学 国際 GIS センタ ー 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	単	DigitalEarthfortheHimalayanRegion (online)	The55thMeetingoftheAsia-Pacific AdvancedNetwork (APAN55) , AgricultureWorkingGroup (AgWG) & RuralHybridization,Koshi2	2023 年 3 月
	C 2	単	GIS で未来を共創する	第 19 回 GIS コミュニティフォーラム 基調講演あいさつ（オンライン）	2022 年 5 月
	C 2	単	総合智で考える気候変動への適応策	令和 4 年度愛知県気候変動適応セン ター気候変動影響・適応研究会	2022 年 6 月
	C 2	単	デジタルアースで考える『社会－生 態システム』の持続可能性－中部大 学恵那 SDGs 先端研究拠点の取組み －	SDGsAICHIEXPO2022 共催の日経 SDGs フェス in どまんなか（共生・共 創・イノベーションで実現する社会 課題解決）	2022 年 10 月

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学术论文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
福井 弘道	C 2	単	GIS の現状と未来について－SDGs・ グリーン変革のためのプラットフォ ーム	江南市議会建設産業委員会講演会	2023 年 1 月
	C 2	単	中山間地域の生物多様性,カーボンニ ュートラルと防災の同時達成に向け た中部大学のポテンシャル	カーボンニュートラル達成に貢献す る大学等コアリションの地域ゼロカ ーボン WG のインタビューシリーズ (公財) 中部圏社会経済研究所	2023 年 2 月
	D		客員研究員	ESRI ジャパンユーザー会 (GIS コミ ュニティフォーラム)	
	D		会長	InternationalJournalofDigital Earth,Taylor&Francis	
	D		InternationalEditorialBoardMember	ISDE ( InternationalSocietyfor DigitalEarth)	
	D		理事 (Councilor)	JAXA 大規模災害衛星画像解析支援 チーム	
	D		委員	JAXA 水災害への利用検討 WG	
	D		理事長セン ター長	一般社団法人 環境創造研究センタ ー愛知県地球温暖防止活動推進セン ター	
	D		理事	環境共生学会	
	D		チーフ GIS オフィサー	公益財団法人 岐阜県建設研究セン ター	
	D		理事	公益財団法人 中部電気利用基礎研 究振興財団	
	D		拠点代表共同利用委員 会委員長	中部大学国際 GIS センター「問題複 合体を対象とするデジタルアース共 同利用・共同研究拠点」	
	D		中部支部 支部長	地理情報システム学会	
	D		会長	東海市環境審議会	
D		会長	四日市市環境保全審議会		
D		座長	気候変動適応中部広域協議会,環境省		
渡部 展也	C 1	単	Spatialsimulationofthepathnetworks intheNeolithicPeriod:A preliminarystudy	NinthWorldwideConferenceofThe SocitetforEastAsian archaeology ( SEAA ) KyungpookNational University,Daegu,SouthKorea (Zoom)	2022 年 7 月
	C 1	共	山東における遺跡分布の長期的変動 と地域性	中国考古学会 2022 年度総会・大会 南 山大学	2023 年 1 月

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
渡部 展也	C 1	共	「バハレーン島における古ディルム ン時代の墳墓群の測量調査」	第30回 西アジア発掘調査報告会 池 袋サンシャインシティ文化会館	2023 年 3 月
	C 1	共	「肥沃な三日月地帯東部の新石器化 ーイラク・クルディスタン,スレマニ 地域チャルモ遺跡の調査 (2022)」	第30回 西アジア発掘調査報告会 池 袋サンシャインシティ文化会館	2023 年 3 月
	C 2	単	考古学 GIS からみる中国における先 史時代の拠点集落の分布と景観	合同シンポジウム「東は東,西は西？ 比較考古学の新視角」学術変革領域 研究 (A)「中国文明起源」×新学術領域研 究（研究領域提案型）「都市文明の本 質」金沢市文化ホール大会議室（石川 県金沢市）および Zoom ミーティン グ	2022 年 10 月
	C 2	単	宇宙から見て現地で知る：中国諸遺 跡のフィールドワーク	人間力創生教育院シンポジウム「中 部大学のフィールド科学」於 中部大 学不言実行館1F	2023 年 1 月
	C 2	単	地域景観を俯瞰するツール・として のGIS・デジタルアース	「水と流域」フォーラム活動発表セッ ション 愛・地球博記念公園	2023 年 2 月
	C 2	単	地理空間情報の「多層性」と考古学ー 考古学 GISの視点と実践ー	南山大学人類学研究所 第一回公開 シンポジウム 南山大学	2023 年 3 月
	D	単	シリア人専門家への三次元計測手法 のオンライン研修 (UNDP)	Zoom	2023 年 3 月
竹島 喜芳	B 1	共	Forest- RelatedSDGIssuesMonitoringfor Data- ScarceRegionsEmployingMachine LearningandRemoteSensing-ACase StudyforEnaCity,Japan	IGARSS2022Conferencepaper,978- 16654-2792-0/22/・2022IEEEIGARSS 2022p4343-4346.	2022 年 7 月
	B 1	共	太陽光発電事業に対する地域住民の 賛否態度の規定要因に関する研究	計画行政 第46巻 第1号（通巻154 号）, pp29-36	2023 年 2 月
	B 1	共	林業体験を通じて森林生態系サービ スの供給と受益に対する気づきを促 すシリアスボードゲーム『TheForest- est：最上級の森林を目指した林業経 営者の挑戦』の開発	環境共生 Vol.39 No.1 pp77-86	2023 年 3 月
	C 1	共	陸前高田市における高分解能衛星画 像による針葉樹の樹種分類	GIS 学会東北支部研究交流会,東北大 学青葉山キャンパス	2023 年 3 月

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
竹島 喜芳	D	単	森林計測技術論	愛媛大学リカレントコース・愛媛大 学農学部	2021 年 9 月
	D	単	精密森林管理論	愛媛大学リカレントコース・愛媛大 学農学部	2021 年 11 月
	D	単	GISの基礎知識(林業とGISの関係性、 測地系・座標系,ファイルフォーマッ ト等)	岩手県林業技術センター,いわて林業 アカデミー	2022 年 7 月
	D	単	森林境界明確化に市町村行政職員が 果たす役割	みえ森林・林業アカデミー研修プロ グラム,三重県林業研究所	2022 年 7 月
	D	単	LiDARデータの煎じ方2022	FOSS4GTokai,岐阜県立森林文化アカ デミー	2022 年 8 月
	D	単	森林境界明確化	三重県市町村職員講座,三重県林業ア カデミー,三重県津庁舎	2022 年 8 月
	D	単	境界確定	林業技士「森林評価」スクーリング・ 主婦会館プラザエフ	2022 年 11 月
	D	単	森林測量	林業技士「森林経営」スクーリング・ 主婦会館プラザエフ	2022 年 12 月
	D	単	藤の特性と里山の保全	第11回WS「八百津だんじり祭り」, 中部ESD拠点協議会,八百津町本町公 民館	2023 年 2 月
	D	単	郡上森づくり推進会議副座長	郡上市役所	2020 年 3 月 ～
	D	単	森林計画学会地区代表理事	森林計画学会	2020 年 3 月 ～
	D	単	森林情報論実習	兵庫県立森林大学校・兵庫県立森林 大学校	2021 年 4 月～12月
	D	単	オフセットクレジット評価検証プロ ジェクト研究会委員	岐阜県林政部	2022 年 3 月～
古澤 礼太	B 1	単	植民地都市アクラの食文化にみるア フロ・ユーラシア文明現代動態	『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文 明』 9:47-78ISSN2186-795X	2023 年 3 月
	C 1	単	ガーナ首都アクラのガマシ漁港に見 る漁民社会の構造：伝統的秩序と漁 港空間の特性から	[研究発表] 日本アフリカ学会第 59 回学術大会 長崎大学（オンライン） 2022 年 5月21日（土）	2022 年 5 月



氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
古澤 礼太	C 1	単	Bio-CulturalDiversityProjecton TraditionalFestivalsandBiodiversity Conservation	[招待発表] The14thAsia-PacificRCE Meeting'EmpoweringLocalWisdomfor EducationforSustainable Development'19-21July2022,Kuala Lumpur,Malaysia,HostedbyRCE GreaterGombak,19thJuly2022, online	2022 年 7 月
	C 1	単	祭りと環境 ～SDGs への貢献～	[講演] あいち山車まつり日本一協 議会 共催研究会「まつりの保存と伝承①」 会場:ウインクあいち会議室 1103(11 階) 日時: 7月 26日 (火)	2022 年 7 月
	C 1	単	「いのちをつなぐ水と流域・地球市 民対話」プロジェクト ～SDGs 推進 モデルの検討～	[パネリスト発表] セッション1「地 球市民×Eventology (一財) 地球産業 文化研究所 (GISPRI) との協働による TEAM EXPO 共創チャレンジ」 第 25 回イベント学会研究大会,2022 年 11 月 12日,ビジネスエアポート横 浜 カンファレンスホール	2022 年 11 月
	C 1	単	SDGs 達成に向けた生物文化多様性 イベント:伊勢・三河湾流域圏の事例 より	[研究発表] 第 25 回イベント学会研 究大会,2022 年 11 月 13日,ビジネス エアポート横浜 カンファレンスホ ール	2022 年 11 月
	C 2	単	地域における SD 人材育成の試みと 展望	[パネリスト発表] SDGs シンポジウ ム中部の「国連人間環境会議から 50 年」 SDGsSymposiumon"Stockholm+50"in ChubuCentralJapan,2022 年 6 月 5 日 (日) 名古屋市公会堂第 7 集会室	2022 年 6 月
C 2	単	流域圏単位ですすめる SDGs ～伊勢・三河湾流域圏からの提案～	[パネリスト発表] 『中部圏 SDGs 広 域フォーラム 2022』,SDGs 推進フォ ーラム in 飛騨高山,2022 年 10 月 29 日 (土),主催:飛騨高山 SDGs パート ナーシップセンター, 中部圏SDGs 広 域プラットフォーム,高山市,飛騨・世 界生活文化センター 飛騨芸術堂	2022 年 10 月	

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
古澤 礼太	C 2	単	2025年に向けて私たちは「水と流域」 で何をつなぐのか	〔コーディネーター〕「いのちをつな ぐ水と流域・地球市民対話プロジェ クト ～地域対話フォーラム 2023inAichi～」, 長久手市 愛・地球博 記念公園 地球市民交流センタ ー,2023年2月23日	2023年2 月
	C 2	共	『伊勢・三河湾流域圏の「祭りと生 物」:生物文化多様性SDGs教育モデ ルの提案』	〔編集〕中部ESD拠点協議会発行,60 頁,春日井市	2023年3 月
	D	共	『中部大学ESD通信』(Vol33-35)	〔編集〕『中部大学ESD通信』,Vol39: 2022年7月,Vol40:2022年11月, Vol.41:2023年3月,中部大学国際 ESD・ SDGsセンター発行	2022年7 月
	D	単	常任運営委員	SDGsクエスト甲子園東海地域実行 委員会	2022年度
	D	単	委員	愛知学長懇話会SDGs企画委員会	2022年度
	D	単	理事	イベント学会	2022年度
	D	単	事務局長	中部ESD拠点協議会(国連大学認定 RCE)	2022年度
	D	単	理事長	特定非営利活動法人愛・地球プラッ トフォーム	2022年度
	D	単	理事	特定非営利活動法人愛・地球博ボラ ンティアセンター	2022年度
D	単	副委員長	愛知県教育委員会 ユネスコスクー ル支援会議	2022年度	
杉田 暁	B 1	共	Agraphconvolutionalnetworkfor predictingCOVID-19dynamicsin190 regions/countries	FrontiersinPublicHealth,Vol.10, 8pp,(2022),https://doi.org/ 10.3389/fpubh.2022.911336	2022年8 月
	B 1	共	Challengesandimplicationsof predictingthespatiotemporal distributionofdenguefeveroutbreakin ChineseTaiwanusingremotesensingdat a anddeplearning	Geo-spatialInformationScience, 7pp,(2023),https://doi.org/ 10.1080/10095020.2022.2144770	2023年1 月
	B 1	共	地域活動推進のためのSDGs指標物 語	環境共生,39巻,1号,p.66-76, (2023),https://doi.org/10.32313/ jahes.39.1_66	2023年4 月

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
杉田 暁	B 2	共	簡易型森林の炭素ストック量推計手 法に関する研究	環境アセスメント学会第 21 回年次大 会要旨集,1pp, (2022) .	2022 年 9 月
	B 2	共	メッセージフェリー手法を用いた現 地観測データ収集システムの設計と その初期検証	土木情報学シンポジウム講演集,vol. 47,4pp, (2022) .	2022 年 9 月
	B 2	共	ドローンで収集した熱赤外画像およ び可視画像から人工知能 (AI) により 迅速に空き家 分布推定を行う手法 の検討	地理情報システム学会講演論文集 Vol.31,9pp, (2022) .	2022 年 10 月
	B 2	共	ドローンで収集した熱赤外画像およ び可視画像から人工知能 (AI) と仮想 現実 (AR) により迅速に空き家分布調 査を行う手法の検討	CSISDAYS2022 研究アブストラクト 集, D07,1pp. (2022) .	2022 年 11 月
	B 2	共	メッセージフェリー手法による現地 観測データ収集システムの実証試験	砂防地すべり技術研究成果報告会発 表論文集 2021,pp.19	2022 年 11 月
	B 2	共	アジアの活断層図のデジタルアース への投入と利用サービスの向上	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.109-113. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	複合的な自然環境便益の時空間評価 に関する基礎的研究	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.117-120. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	ローカル SDGs 指標に基づく施策議 論プログラムの ESD 活用研究 (2 年 目)	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.133-139. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	ドローン固定翼機をもちいた有明海 の絶滅危惧種スナメリと人為的活動 の動的競合の可視化	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.147-150. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	感染症パンデミックの時空間ダイナ ミクス解析	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.161-164. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	ドローンを用いた大気流速場の局所 計測	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.167-170. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	第 9 回低空空撮技術活用研究会 (デ ジタルアース研究会ドローン分科 会)	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.173-176. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	市民対話からの環境ガバナンスへ： 福島と愛知をつなぐ	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.37-46. (2023) .	2023 年 2 月
B 2	共	深層学習による画像認識技術を用い たチョウ斑紋の地理的変異に関する 定量的考察	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.47-52. (2023) .	2023 年 2 月	

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
杉田 暁	B 2	共	マインドクライメート研究 必須 MC 観測変数 (EssentialVariables of Mind Climate) の抽出の検討	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.53-57. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	深層学習を用いた都市活動空間分布 の推計手法	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.61-64. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	気候変動適応の調査に資する橋梁の 情報集積の研究「X-Bridge」	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.65-69. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	AST-GCN モデル・ビッグデータを用 いた新型コロナウイルス感染症流行 予測	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.71-74. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	ドローンにより収集した熱赤外画像 および可視画像から人工知能 (AI) に より迅速に空き家分布推定を行う手 法の研究	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.75-87. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	デジタルアースを利用した避難情報 伝達支援システム - 2 アンテナ式 GPS 測位とデジタルアースへの統合 -	IDEASJointUsage/JointResearch Report2022,pp.99-108. (2023) .	2023 年 2 月
	B 2	共	簡易モバイル LiDAR による 3D マッ ピング - 活断層・地震断層の計測を 中心に	2023 年度日本地理学会春季学術大会 発表 要旨集 ,241,1pp, ( 2023 ) , <a href="https://doi.org/10.14866/ajg.2023s.0_179">https://doi.org/10.14866/ajg.2023s. 0_179</a>	2023 年 3 月
	B 2	共	低価格レーザースキャナを用いた簡 易型 3D マッピングシステムの構築	2023 年度日本地理学会春季学術大会 発表 要旨集 ,P046,1pp, ( 2023 ) , <a href="https://doi.org/10.14866/ajg.2023s.0_123">https://doi.org/10.14866/ajg.2023s. 0_123</a>	2023 年 3 月
	B 2	共	バハレーン島における古ディルムン 時代の墳墓群の測量調査 - ディル ムンマッピング・プロジェクト -	第 30 回西アジア発掘調査報告会報告 集, p47-52, (2023) .	2023 年 3 月
	B 2	共	春日井市勝川・南部地区の企業を対 象としたタイムライン水防災に関わ る検討	土木学会中部支部研究発表会講演概 要集, 2pp, (2023) .	2023 年 3 月
C 1	共	簡易型森林の炭素ストック量推計手 法に関する研究	環境アセスメント学会第 21 回年次大 会, Poster-2,2022 年 9 月,東京工業大 学.	2022 年 9 月	

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
杉田 暁	C 1	単	u-blox 格安 CLAS 受信機レビュー	第 10 回低空空撮技術活用研究会,2022 年 9 月,富士山科学研究所.	2022 年 9 月
	C 1	共	メッセージフェリー手法を用いた現 地観測データ収集システムの設計と その初期検証	土木情報学シンポジウム,II-5-6,2022 年 9 月,土木会館.	2022 年 9 月
	C 1	共	ドローンで収集した熱赤外画像およ び可視画像から人工知能 (AI) により 迅速に空き家分布推定を行う手法の 検討	地理情報システム学会学術大会,C-4- 2, 2022 年 10 月,那覇市.	2022 年 10 月
	C 1	共	低価格・小型な機載 RTK-GNSS と ACP 法を用いた UAV 写真測量の高精 度化	地理情報システム学会学術大会, Poster-30,2022 年 10 月,那覇市.	2022 年 10 月
	C 1	共	ドローンで収集した熱赤外画像およ び可視画像から人工知能 (AI) と仮想 現実 (AR) により迅速に空き家分布調 査を行う手法の検討	CSISDAYS2022,D07,2022 年 11 月,東 京大学柏キャンパス.	2022 年 11 月
	C 1	共	アジアの活断層図のデジタルアース への投入と利用サービスの向上	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	準天頂衛星の高精度測位機能利用方 式に関する調査研究	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	デジタル急峻地形	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	ドローンにより収集した熱赤外画像 および可視画像から生成したバーチ ャルリアリティ空間を用いた空き家 現地調査の効率化に関する検討	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
C 1	共	ドローンを用いた大気流速場の局所 計測	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月	

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
杉田 暁	C 1	共	ドローン固定翼機をもちいた有明海 の絶滅危惧種スナメリと人為的活動 の動的競合の可視化	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	ローカル SDGs 指標に基づく施策議 論プログラムの ESD 活用研究	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	感染症パンデミックの時空間ダイナ ミクス解析	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	簡易 LiDAR による 3D デジタルマッ ピングとサイエンス・コミュニケー ションでの利活用	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	橋梁流失リスクのオープンデータか ら始める気候変動適応	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	空撮画像を用いた樹種判定手法の基 礎技術に関する研究	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	公衆衛生分野におけるオープンソー ス・インテリジェンスの有効性の検 証	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	共	夜間光変化のモデル化と将来都市活 動の推定	「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」2022 年度成果報告会,2023 年 2 月,中部大 学.	2023 年 2 月
	C 1	単	空間情報に関する話題提供	ワイン・日本酒プロジェクト研究交流 会, 2023 年 3 月,中部大学.	2023 年 3 月
C 1	共	バハレーン島における古ディルムン 時代の墳墓群の測量調査ーディルム ンマッピング・プロジェクトー	第 30 回西アジア発掘調査報告会,報 告⑨, 2023 年 3 月,東京都.	2023 年 3 月	

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
杉田 暁	C 1	共	春日井市勝川・南部地区の企業を対 象としたタイムライン水防災に関わ る検討	土木学会中部支部研究発表会,II-55, 2023年3月,金沢工業大学.	2023年3 月
	C 1	共	簡易モバイル LiDAR による 3D マッ ピングー活断層・地震断層の計測を 中心に	日本地理学会春季学術大会,241, 2023年3月,東京都立大学.	2023年3 月
	C 1	共	低価格レーザースキャナを用いた簡 易型 3D マッピングシステムの構築	日本地理学会春季学術大会,P046, 2023年3月,東京都立大学.	2023年3 月
	C 2	単	無人航空機を対象とする今後の登録 制度,免許制度,飛行ルール等について	無人航空機登録制度に関する説明会, 2022年4月,中部大学.	2022年4 月
	C 2	共	2021年度 中部大学 国際 GIS センタ ー「問題複合体を対 象とするデジタ ルアース共同利用・共同研究拠点」成 果報告会	GIS－理論と応用,30 巻,1 号,p65-72, (2022) .	2022年6 月
	C 2	共	ドローンを活用した火山防災対応の 紹介	令和4年度焼岳火山防災避難訓練, 2022年11月,高山市.	2022年11 月
	D		CommitteeMember,YoungScientist InnovationNetwork (YSIN)	InternationalSocietyforDigital Earth	
D		代議員,企画委員会委員,広報委員会委 員	一般社団法人 地理情報システム学会		
上野 吉一	A 2	単	生理学・行動学からみた人類の食	ISBN : 9784540201097 「フォーラム 人間の食 第 2 巻 食の現代社会論一 科学と人間の狭間から」,伏木亨(編), 農文協, pp27-52.	2022年8 月
	B 1	共	ツシマアカネズミの飼育下繁殖ー繁 殖手法および繁殖時期の検討と出生 仔の身体計測ー	動物園水族館雑誌,64 (4) ,77-85.	2023年3 月
川村 真也	A 2	共	SDGs と地域社会 あなたのまちで人間の安全保障指標 をつくろう！ 宮城モデルから全国 へ	ISBN9784750354958, 明 石 書 店 pp.30-35,第 3 章 SDGs 宮城モデル 3- 1 の 「地図で見た宮城県」の全てを担当, pp.52-62,3-3 「SDGs 宮城モデル」, pp.207-258,参考資料「SDGs 宮城モデ ル指標別ランキング」,pp.259-276,「宮 城県市町村別プロフィール」の一部を 担当。	2022年12 月

氏名	区分	共・単著 の別	著書・学术论文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
川村 真也	B 2	共	蝶斑紋の地理的差異に関する定量的 考察	文部科学省 共同利用・共同研究拠点 中部大学 中部高等学術研究所 国際 GIS センター「問題複合体を対象とす るデジタルアース共同利用・共同研究 拠点」2021 年度成果報告 pp.47-52	2023 年 2 月
	B 2	共	ローカル SDGs 指標に基づく施策議 論プログラムの ESD 活用研究	文部科学省 共同利用・共同研究拠点 中部大学 中部高等学術研究所 国際 GIS センター「問題複合体を対象とす るデジタルアース共同利用・共同研究 拠点」2021 年度成果報告 pp.133- 139	2023 年 2 月
	B 2	共	都道府県内の人間の安全保障指標 （HSI）の開発と DE 技術の適用 - SDGs の実践の効果的な計測のため	文部科学省 共同利用・共同研究拠点 中部大学 中部高等学術研究所 国際 GIS センター「問題複合体を対象とす るデジタルアース共同利用・共同研究 拠点」2021 年度成果報告 pp.141- 146	2023 年 2 月
	B 2	共	流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関 する研究 -伊勢・三河湾集水域の流域圏を事例 として-	文部科学省 共同利用・共同研究拠点 中部大学 中部高等学術研究所 国際 GIS センター「問題複合体を対象とす るデジタルアース共同利用・共同研究 拠点」2021 年度成果報告 pp.151- 158	2023 年 2 月
	C 1	共	ローカル SDGs 指標に基づく施策議 論プログラムの ESD 活用研究（3 年 目）	2022 年度中部大学国際 GIS センター 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	都道府県内の人間の安全保障指標 （HSI）の開発と DE 技術の適用 - SDGs の実践の効果的な計測のため に - 宮城県から愛知県へ	2022 年度中部大学国際 GIS センター 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月
	C 1	共	流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関 する研究 - 流域圏ステークホルダー との協働に向けて -	2022 年度中部大学国際 GIS センター 「問題複合体を対象とするデジタル アース共同利用・共同研究拠点」成果 報告会	2023 年 2 月



氏名	区分	共・単著 の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・ 諸活動の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学 会等の開催場所	発表年月
川村 真也	C 2	単	中部 ESD 拠点（RCE 中部）について	SDGs 推進フォーラム in 飛騨高山～ 飛騨高山 SDGs シンポジウム×中部 圏 SDGs 広域フォーラム～SDGs 活 動発表セッション （会場：高山市 飛騨・世界生活文化 センター 飛騨芸術堂）	2022 年 10 月
	C 2	単	伊勢・三河湾流域圏における SDGs 指 標研究	いのちをつなぐ水と流域・地球市民対 話 プロジェクト～ 地域対話フォーラム 2023inAichi～ 分科会4：テーマ 「SDGs のパートナーシップ」（会場： 長久手市 愛・地球博記念公園 地球市 民交流センター）	2023 年 2 月
	C 2	共	『伊勢・三河湾流域圏の「祭りと生 物」：生物文化多様性 SDGs 教育モデ ルの提案』	[編集] 中部 ESD 拠点協議会発行,60 頁	2023 年 3 月
	D	単	デジタルアースを活用した社会課題 の解決デジタルアースによる流域指 標研究	ローカル SDGs 地域づくり学習会デ ジタルデータで地域づくり? 「なんと なく」の問題を見える化すると面白い 第1部 講座,第2部 テーブルブース ワーク「デジタルアースを実際に触れ てみよう」における講師（会場：長野 県飯田市公民館）	2022 年 7 月
	D	共	『中部大学 ESD 通信』（Vol.39-41）	[編集]『中部大学 ESD 通信』,Vol.39: 2022 年 7 月,Vol.40:2022 年 11 月, Vol.41:2023 年 3 月,中部大学国際 ESD・ SDGs センター発行	2022 年 7 月
D	単	講師	2022 年度（令和 4 年度）中部大学春 日丘中学校「中大連携・啓明祭発表」	2022 年 9 月	

### 3. 2022年度に開催された研究会・シンポジウム等

2022年度、中部高等学術研究所主催の研究会として「人文学の再構築」研究会が開催された。概要は以下の通りである。

#### 「人文学の再構築」研究会

##### 1) 研究会概要

中世末期に大学を中心として人文学が成立した時点では、科学と技術との連携は無かった。科学は人文学に抱合されていたからである。また、技術は学問の枠外にあり、学問と技術は、お互いを無視する、あるいは蔑視しあうという関係にあった。ところが、16世紀、17世紀のいわゆる科学革命の中で、人文学から科学が自立し、科学と技術の連携も進んだ。こうした過程を進めたのは、大学というよりも、新しく成立してくる近代国家が設立したアカデミーであった。このことから、新しい形の学問の近代的な枠組みが定着するのは、フランス革命期の学問改革あるいはアカデミーの再編からだったのではないかと考えられる。その後、19世紀に科学と技術の結合がさらに進むと、一方で、科学技術が発展するが、他方で理系と文系の乖離が問題となった。特に世界大戦後には文系の側にも科学的な手法が入り、人文学自体が変質すると同時に多くの分野の影が薄くなってしまった。このため、今日「学問の社会史」というものを考える場合に、「科学の社会史」と同義語になってしまうような状況が生まれた。

本研究会を立ち上げるに際しては、人文学から科学が独立・自立する歴史的な過程をたどることで科学に対して人文学的な価値評価をすれば、理系と文系とのより強い緊張関係が作り出され、学問の将来を展望できるのではないかと考えた。科学の社会史を問い直すことによって、人文学的な価値意識によって科学の将来を論じることが可能ではないかというのが、この共同研究の趣旨である。本研究会では、学問の現状と課題について、歴史的、特に近代史的視点に立って反省的考察を加えることを試みる。検証結果は中部大学の研究と教育に生かすとともに、広く外部に問題提起を発信することを目指している。

##### 2) 世話人

安藤 隆穂 客員教授	中部高等学術研究所
玉田 敦子 准教授	人文学部 共通教育科

##### 3) 開催実績

- ・2022年度は2回開催

◎ 「人文学の再構築」第13回研究会

日 時：2022年10月12日（土）15時00分～17時30分

場 所：新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomでの開催

演 題 「中東の諸紛争の起源について：植民地支配・冷戦構造の遺恨から考える」

演 者 酒井 啓子（千葉大学大学院社会科学研究院教授）

◎ 「人文学の再構築」第14回研究会

日 時：2022年11月12日（土）15時00分～17時30分

場 所：新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomでの開催

演 題 「チャールズ・テイラーの複合的近代化論の今日的意味—『世俗の時代』を  
読解する」

演 者 千葉 眞（国際基督教大学名誉教授）

#### 4. 国際 ESD・SDGs センター

##### 4. 1. 国際 ESD・SDGs センター主催・共催事業

###### (1) 「第 13 回中部大学 ESD・SDGs 研究活動発表会」の開催

日時：2022 年 11 月 30 日（水） 15:20～18:30

場所：中部大学 Zoom によるオンライン開催

(プログラム)

###### ■ 開催のあいさつ

竹内芳美 中部大学 学長

###### ■ 趣旨説明

山羽基 国際 ESD・SDGs センター長

###### ■ 第 1 セッション

司会：影浦順子（経営情報学部講師／国際 ESD・SDGs センター）

- ・ 水害に対する地域住民の防災意識向上プロジェクト  
藤原裕大、河合真誠、草間海斗（工学部 都市建設工学科）
- ・ 内津川にみる外来種の現状  
石井日香留、板橋裕也、天野佑亮（応用生物学部 環境生物科学科）
- ・ 春日井市における特定外来種オオフサモの現状とその対策  
中野天愛（応用生物学部 環境生物科学科）
- ・ 岐阜大学環境ユニバーシティ学生推進室（G-amet）の取り組み  
～自然環境と共生し地域に貢献する持続可能なキャンパスを目指して～  
田中ひなた、堀部真生、柴山晴香、中藤駿
- ・ 飛沫感染を防ぐマスクの検討～持続可能な感染症対策を目指して  
瀬口愛斗（大学院 生命健康科学研究科）、  
水野諒汰（生命健康科学部 生命医学学科）

###### ■ 第 2 セッション

司会：川村真也（国際 ESD・SDGs センター特任講師）

- ・ ウガンダにおける生理問題と教育  
磯部彩香（国際関係学部 国際学科）
- ・ 異分野の学生参加による地歌舞伎を活用した地域の SDGs 開発  
—新事業創出の基盤となる地域の「文化的ネットワーク」形成—  
樗木宏成（大学院 国際人間学研究科）
- ・ 地域ヒノキ材を活用した学校建築の実現  
渡邊裕太、木上大生（工学部 建築学科）堀田集平（大学院 工学研究科）
- ・ 持続可能なコミュニティに関する学生主体の標準化教育  
塚本美空、原晃月、浅井洸太郎、数井日向、北山侍穂、酒井唯人、  
柴田拓実、日渡柊太、藤澤朋輪、増田宗真、宮田直、山本海里  
（経営情報学部 中部大学 ESD エコマネージャーチーム）
- ・ 食品循環資源を用いた発酵エコフィードの開発～伊勢あかりのぼーくで SDGs の輪を！  
宮本望愛、金谷かぐら、高橋実鈴、中川穂南  
（三重県立明野高等学校 生産科学科）
- ・ 使って楽しい大学生向け SDGs アプリの提案  
藤拓宏、戸塚桂悟（経営情報学部 総合経営学科）

###### ■ 討論会

進行：古澤礼太（国際 ESD・SDGs センター准教授）

###### ■ 総括

伊藤佳世（経営情報学部准教授/国際 ESD・SDGs センター運営委員）

（2）「中部大学 ESD・SDGs シンポジウム」の開催

○ 第 27 回シンポジウム中部の「国連人間環境会議から 50 年」

日時：2022 年 6 月 5 日（日）13:30～17:00

会場：名古屋市公会堂第 7 集会室

（プログラム）

■ 開会挨拶

飯吉厚夫（中部 ESD 拠点 代表、中部大学 理事長・総長）

■ 基調講演 「ストックホルムから 50 年、リオから 30 年、そして SDGs」

竹内恒夫（名古屋大学 名誉教授、中部 ESD 拠点運営委員）

■ パネル討論 第 1 部 スtockホルム世代～中京工業地帯の公害経験のレガシーは？

伊藤章治（桜美林大学 名誉教授、元東京新聞〔中日新聞〕論説委員）

内河恵一（中部の環境を考える会 世話人、弁護士）

稲垣隆司（愛知環境カウンセラー協会 相談役、元愛知県副知事）

朴恵淑（三重大学 特命副学長、WHO アジア太平洋環境保健センター〔WHOACE〕  
所長、中部 ESD 拠点運営委員）

■ パネル討論 第 2 部 リオ世代

～リオのキーコンセプト SD は、この地域にどう活かされたか？この地域の循環型社会  
づくり、エネルギー地産地消は十分か？

松原武久（東海学園大学 学長、前名古屋市市長、なごや環境大学 初代運営委員長）

飯尾歩（中日新聞 論説委員）

萩原喜之（三河の山里コミュニティパワー 専務取締役）

杉山範子（世界首長誓約/日本 事務局長、名古屋大学 特任准教授）

■ パネル討論 第 3 部 SDGs 世代～SDGs いったい何をを目指す？

古澤礼太（中部 ESD 拠点 事務局長、中部大学 准教授）

戸成司朗（中部 SDGs 推進センター 代表理事、中部 ESD 拠点運営委員）

油口琢磨（学生団体 ACTION FOR FUTURE 代表、中部サステナ政策塾 塾生）

鬼頭美優和（名古屋国際高等学校 3 年生〔SDGs 未来倶楽部 Sus-Teen!〕）

■ 閉会挨拶

遠藤和重（国連地域開発センター所長）

○ 第 28 回シンポジウム「SDGs 推進フォーラム in 飛騨高山～飛騨高山 SDGs シンポジウ  
ム×中部圏 SDGs 広域フォーラム～」

日時：2022 年 10 月 29 日（土）10:00～17:00

会場：飛騨・世界生活文化センター飛騨芸術堂

（プログラム）

◇ SDGs 活動発表セッション 10:00～12:00

■ 開会あいさつ

細田衛士 飛騨高山 SDGs パートナースhipセンター長

遠藤和重 中部圏 SDGs 広域プラットフォーム 副会長（国連地域開発センター  
〔UNCRD〕所長）

■ 活動発表

プレゼンテーション&ブース展示：企業、高校、自治体、市民団体等（高山市/ 中部圏の  
活動団体）発表団体

高山市：飛騨高山高校、飛騨高山フードバリアフリー協議会、大八まちづくり協議会、

ホテルアソシア高山リゾート、飛騨高山フューチャープロジェクトなど  
広域 PF：国連地域開発センター（UNCRD）、岐阜県、  
東京海上日動火災保険株式会社、中部日本放送株式会社（CBC）、  
加山興業株式会社など

◇シンポジウム・セッション

I. 『飛騨高山 SDGs シンポジウム』 13：30～15：00

- 主催者あいさつ  
清水雅博 高山市 副市長
- 講演  
細田衛士 センター長（東海大学 副学長、中部大学 学事顧問）  
関幸子 推進アドバイザー（株式会社ローカルファースト研究所 代表取締役）  
古里圭史 推進アドバイザー（慶應義塾大学 特任准教授）

II. 『中部圏 SDGs 広域フォーラム 2022』 15：10～16：45

- 主催者あいさつ  
飯吉厚夫 中部圏 SDGs 広域プラットフォーム会長（中部 ESD 拠点代表、中部大学 理事長・総長）
- パネルディスカッション 「中部圏の SDGs ネットワークがめざすもの」  
【コーディネーター】  
林良嗣 中部圏 SDGs 広域プラットフォーム副会長（ローマクラブ日本代表、中部大学 卓越教授）  
【パネリスト】  
井上滋樹 九州 SDGs 経営推進フォーラム会長（九州大学大学院芸術工学研究院教授）  
※オンライン参加  
神田純代 三承工業株式会社 ダイバーシティ推進室 SDGs 担当  
（第2回ジャパン SDGs アワード特別賞受賞）  
田和正裕 大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ（SSI）教授  
関本光浩 さばえ SDGs 推進センター 所長（SDGs 未来都市鯖江市）  
古澤礼太 中部 ESD 拠点協議会事務局長  
（中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授）
- 閉会あいさつ  
石橋健一 中部圏 SDGs 広域プラットフォーム 事務局長  
（愛知学院大学総合政策学部 教授）

(3) 「中部大学 ESD 通信」の発行

Vol.39 を 2022 年 7 月、Vol.40 を 2022 年 11 月、Vol.41 を 2023 年 3 月に発行。  
編集委員会：山羽センター長、武田准教授、古澤准教授、影浦講師、川村特任講師

4. 2. 国際 ESD センター地域連携事業

(1) 中部 ESD 拠点協議会主催「中部サステナ政策塾」活動

- 中部サステナ政策塾 2022 度 第 1 回講座テーマ：  
SDGs 達成に向けたポリシーメーカーとは  
講師：竹内恒夫氏、石田芳弘氏  
日時：2022 年 7 月 9 日（土）13:30～16:30  
会場：今池ガスビルダイアモンドルーム＋オンライン開催

- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 2 回講座  
テーマ：地球規模課題解決に向けた自治体の役割  
講師：杉山範子氏  
日時：2022 年 7 月 27 日（水） 19:00～21:00  
会場：名古屋市公会堂第 6 集会室＋オンライン開催
- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 3 回講座  
テーマ：市長としての SDGs への取組  
講師：山下史守朗氏  
日時：2022 年 9 月 8 日（木） 19:00～21:00  
会場：名古屋市公会堂第 6 集会室＋オンライン開催
- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 4 回選択講座  
テーマ：「文化と環境の多様性」を考えるフィールドワーク  
・愛知県蟹江町蟹江須成祭りワークショップ  
日時：2022 年 10 月 1 日（土） 10:00～16:00  
・三重県四日市富田鯨船祭りワークショップ  
日時：2022 年 10 月 15 日（土） 10:00～16:00
- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 5 回講座  
テーマ：風土と SDGs  
講師：若山滋氏  
日時：2020 年 10 月 8 日（土） 10:00～11:15  
会場：愛知県国際展示場
- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 6 回講座  
テーマ：ユース、環境、そして平和  
講師：羽仁カンタ氏  
日時：2022 年 11 月 7 日（月） 19:00～21:00  
会場：名古屋市公会堂第 7 集会室＋オンライン開催
- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 7 回講座  
フィールドワークテーマ：榊田川流域の持続可能性を考える  
日時：2022 年 11 月 26 日～27 日  
会場：榊田川流域圏
- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 8 回講座  
テーマ：首長の意思決定と政策転換  
講師：北川正恭氏  
日時：2022 年 12 月 15 日（木） 19:00～20:45  
会場：ウイנקあいち＋オンライン開催
- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 9 回講座  
テーマ：マニフェストづくり  
日時：2023 年 1 月 25 日（水） 19:00～21:00  
会場：名古屋市公会堂 第 6 集会室

- 中部サステナ政策塾 2022 年度 第 10 回講座  
「中部サステナ政策塾」 成果発表  
日時：2023 年 2 月 23 日（木・祝） 10:00～18:30  
会場：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター

(2) 中部 ESD 拠点主催「祭りと生物多様性 SDGs プロジェクト」（トヨタ環境活動助成プログラム）の実施

- 第 5 回ワークショップ「亀崎潮干祭りから考える三河湾のあさり」  
日時：2022 年 7 月 2 日（土）  
会場：かめとも- 亀崎まちおこしの会まちかどサロン
- 第 6 回ワークショップ「知多半島・豊浜鯛まつりから考える森里川海」  
日時：2022 年 9 月 11 日（日）  
会場：愛知県南知多町豊浜漁港周辺
- 第 7 回ワークショップ「蟹江須成祭の葎（ヨシ）から考える川文化と自然環境」  
日時：2022 年 10 月 1 日（土）  
会場：富吉建速神社・八劔社社務所
- 第 8 回ワークショップ「鯨船祭りから考える生物文化多様性」  
日時：2022 年 10 月 15 日（土）  
会場：東富田会館
- 第 9 回ワークショップ「美濃和紙と里山のまちづくり」  
日時：2022 年 11 月 20 日（日）  
会場：美濃和紙町屋 WASITA MINO
- 第 10 回ワークショップ「岐阜県神戸町の山王まつりから考える大麻の過去と未来」  
日時：2022 年 12 月 17 日（土）  
会場：日吉神社 社務所
- 第 11 回ワークショップ「八百津だんじり祭り～藤のツルから考える人と自然の共生～」  
日時：2023 年 1 月 28 日（土）  
会場：八百津本町公民館
- 第 2 回 生物文化多様性フォーラム  
日時：2023 年 2 月 23 日  
会場：愛・地球博記念公園地球市民交流センター

(3) 中部 ESD 拠点 その他の活動

- 2022 年度 国内 RCE 実務者会議 2023 年 2 月 22 日（水）開催担当：RCE 中部
- 国際連携活動（UNESCO ESD for 2030” 国連大学 RCE ネットワーク活動）The 14th Asia-Pacific RCE Regional Meeting（2022 年 7 月 19 日-21 日）、会場：Zoom によるオンラインと、マレーシア国際イスラム大学、クアラルンプール



○中部圏 SDGs 広域プラットフォームとの連携活動通常総会の開催  
(2022年6月15日)

○中部 ESD 拠点協議会総会の開催 (2022年6月5日)

○ SDGs AICHI EXPO2022 への参加・出展 (2022年10月6日-8日)、  
会場：愛知県国際展示場 (Aichi Sky Expo)

○三河湾大感謝祭への参加・出展、2022年10月9日、  
会場：西尾市一色さかな広場

(4) 愛知学長懇話会サステナビリティ・プロジェクトの実施支援

○ SDGs リレーシンポジウムの開催

「かがやけ☆あいちサステイナ研究所成果発表会 2022

【愛知学長懇話会 SDGs リレーシンポジウム (第13回)】

日時：2022年12月11日

会場：名城大学ナゴヤドーム前キャンパス南館 DS101 (DSホール)

○あいちサイエンスフェスティバルへの講師派遣  
サイエンストーク

1. 「気候危機の時代を生きる」

ゲスト：杉山範子 (名古屋大学大学院環境学研究科特任准教授)

日時：2022年10月1日 (土) 12:30~13:30

会場：三井住友銀行 SMBC パーク栄 (栄パークサイドプレイス1階)

2. 「スマートシティを支える技術」

ゲスト：秀島栄三 (名古屋工業大学大学院工学研究科教授)

日時：2022年10月1日 (土) 14:30~15:30

会場：三井住友銀行 SMBC パーク栄 (栄パークサイドプレイス1階)

3. 「心の科学と客観性」

ゲスト：長滝祥司 (中京大学国際学部教授) Zoom ウェビナー

日時：2022年10月21日 (金) 19:00~20:00

(5) SDGs AICHI EXPO2022 への参加・出展

日時：2022年10月6~8日

会場：愛知県国際展示場 (Aichi Sky Expo)

(6) 愛知県内の大学における SDGs 情報の収集・発信

愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会活動および愛知県内の大学における SDGs に関する情報収集と発信を行うホームページを開設した。

<http://www.aichi-gakuchou-sdgs.org/>

(7) 2022年度 愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会会議

第1回：2022年5月12日

第2回：2020年11月20日

(5) いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト

○ 水と流域・地球市民対話フォーラム【兼 中部サステナ政策塾成果報告】の開催  
第1回「地域対話フォーラム 2023 in Aichi」

日時：2023年2月23日（木）

会場：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター

主催：「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト」推進委員会

共催：イベント学会、地球産業文化研究所（GISPRI）、

中部ESD拠点協議会、中部大学国際ESD・SDGsセンター

【第1部】

■ 活動発表 50団体発表（4分科会：12団体×5分）

分科会1：テーマ「水と環境：水環境・利水・治水」①教育、②技術、③協働

分科会2：テーマ「水と生業：林業・農業・水産業・エネルギー」①教育、  
②技術、③協働

分科会3：テーマ「水と文化：まちづくり・観光・伝統知」①教育、②技術、  
③協働

分科会4：テーマ「SDGsのパートナーシップ」①地域、②広域・国内、③国際

【第2部】

■ 基調講演 「流域で考えるいのちの物語」

高野雅夫（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

パネルディスカッション〔コーディネーター：古澤礼太 中部大学准教授〕

秀島栄三（名古屋工業大学教授）

巽好幸（ジオリブ研究所所長/神戸大学名誉教授・客員教授）

岩本渉（アジア太平洋無形文化遺産研究センター〔IRCI〕所長）

平原依文（HI 合同会社 代表/青年版ダボス会議 One Young World 日本代表）

【第3部】

■ 全体討論 「Aichi 活動方針 2023」採択

■ 閉会挨拶

朴恵淑（「水と流域・地球市民対話」地域フォーラム 2023 in Aichi 実行委員長、三重大学特命副学長）

【第4部】

■ 食のセッション「味わって考える 伊勢・三河湾流域圏のサステナビリティ」

5. 国際 GIS センター

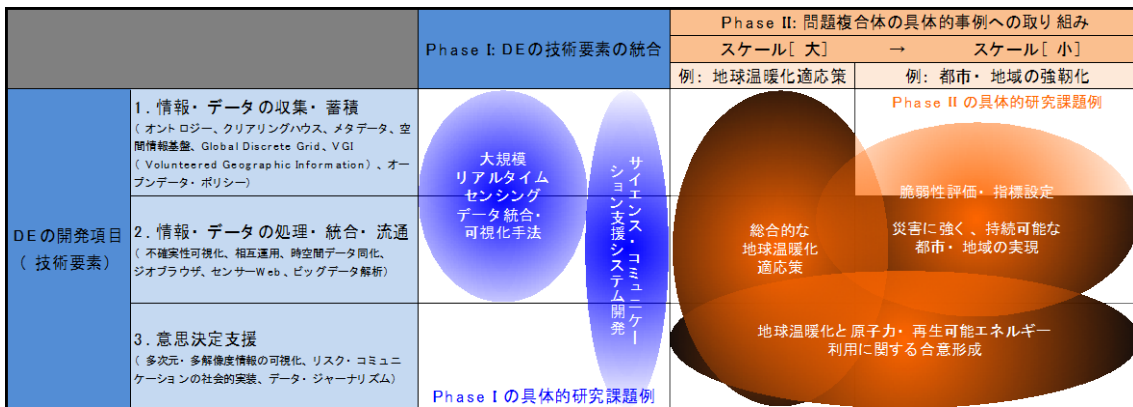
5. 1. 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

現在人類は、自然災害のリスクから科学技術に伴うリスクに加え、地域・民族紛争ばかりか最近では地球温暖化といったリスクなど、様々なリスクを抱えています。これらのリスクは、相互に関連するとともに、ある局所的に突発した些細な事象が、急速に全球レベル波及し、人類の持続性の脅威にもなりかねません。

このような複合的かつ早急に対処を要するリスクに対応するためには、問題の把握と対応を実時間（リアルタイム）に行い、諸科学を横断して因果分析やプロセス分析を総合的に融合するといった、新しい問題対応手法が必要です。そこで中部大学では、その手法は、近年、成熟した技術となりつつある、GIS、空間情報科学（Geoinformatics）によるアプローチが有効であると考え、複数の研究者がコラボレーションをするための組織を創り、新しい問題対応手法の開発を研究しています。

拠点の目的：

情報科学、リモートセンシング、GIS、社会工学等に関する研究者との共同利用・共同研究を通じて、サイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発を行う。さらに環境、災害等の問題複合体の研究者に対し、デジタルアースを提供し、共同利用・共同研究により持続可能な社会を構築するため、問題複合体を解題し、合意形成に寄与するとともに関連諸科学の発展に貢献する。



令和4年度採択共同研究：

カテゴリ1：デジタルアースの技術要素の統合

1-1：リアルタイム・センシングデータ統合手法

研究課題番号：IDEAS202202

研究課題名：大規模衛星データの農業利用を目的としたスケーラブルなAPI、及び

アプリケーションの開発

研究代表者 : 西内俊策 (名古屋大学)

研究概要 : 大規模衛星データの利用時に課題となる薄雲の検知と影響の排除を行う

アルゴリズムの開発を通して、土地利用型作物の生育解析への実用例を蓄積し、これまでに開発した API とアプリケーションの機能拡張を進める。農業の意思決定に大規模衛星プラットフォームのデータを利用する際、雲の影響により連続して衛星データが利用出来ない、というケースが問題となる。薄い雲が存在する衛星データから、生育診断などに利用可能な NDVI を推定する技術が開発できれば、農業分野における大規模衛星データの利用が促進されるという想定の下、時系列データを利用することで薄雲存在下の衛星データから植生指標が推定できるかを検証する。

研究課題番号 : IDEAS202201

研究課題名 : センシングデータ/GIS データ/統計データを統合した移動販売のための AI 解析

研究代表者 : 長井正彦 (山口大学)

研究概要 : 本研究は、山口県を中心に小売業を展開している移動販売車に GNSS や気象センサを搭載し、リアルタイム・センシングデータを取得する。また、移動販売による販売データ、高齢者世帯等の社会統計データ、小売店舗や地形等の GIS データを収集する。これらのデータに関しては、OGC の標準 (WMS、WCS、MFS、SOS 等) を用い、センサーデータ、GIS データを Web サービス上で統合できる環境を実装する。本研究では、SOS によるデータ投入ライブラリの組み込みを行い、データ取得および投入の簡略化を行い、収集したデータをもとに、データサイエンス技術を用いた予測分析を検討することを目的とする。

### 1-3 : サイエンス・コミュニケーション・システム開発

研究課題番号 : IDEAS202205

研究課題名 : 簡易 LiDAR による 3D デジタルマッピングとサイエンス・コミュニケーションでの利活用

研究代表者 : 濱侃 (千葉大学)

研究概要 : 本研究の目的は、高性能化と低価格化が急速に進む LiDAR を用いて、環境や自然災害および文化遺産等に関連する事物の 3D マッピングを行いサイバースペースに再構築することによってデジタルで未来に残し、その成果をサイエンス・コ

コミュニケーションのツールとして活用しようとするものである。これにより、1. 効率的な簡易 LiDAR 計測システムの開発、2. 環境・地形や災害および文化遺産等に関連する事物の 3D マッピング、3. サイエンス・コミュニケーションのための 3D マッピングの利活用の実現を目指すものである。

研究課題番号：IDEAS202204

研究課題名：市民対話からの環境ガバナンスへ：福島で探る

研究代表者：中村秀規（富山県立大学）

研究概要：本研究はサイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発において、主として社会科学に関わる問題を表象する情報・データの収集・蓄積を行い、デジタルアース上において地理空間上の分布を、俯瞰的に分析することを目的とした。特に新型コロナウイルスのパンデミックが引き起こした諸問題に関する報道について、読売新聞と朝日新聞を対象として、New York Times と比較しつつその量と質の分析を行った。本研究は Twitter 等、利用者の年齢が若年に寄った速報性の高いメディアではなく、マス・メディアの「情報の元栓」である新聞報道の分析を通じたメディア研究である。

#### 1-4：ビッグデータ解析

研究課題番号：IDEAS202209

研究課題名：夜間光変化のモデル化と将来都市活動の推定

研究代表者：安納住子（上智大学）

研究概要：本研究では、人工衛星による観測夜間光強度を説明するモデルを作成して将来の都市活動を推計し、社会経済シナリオと地理条件等を融合した都市形状の解析と予測を行う。本研究の都市活動推計モデルを導入する事により、デジタルアースの将来予測と問題複合体対応のツールとしての機能強化に貢献する事を目的とする。

研究課題番号：IDEAS202208

研究課題名：気候変動適応の調査に資する橋梁の情報集積手法研究及びそのシチズンサイエンスを通じた活用

研究代表者：小田真人（神戸情報大学院大学）

研究概要：気候変動による災害は激甚化の傾向にあり、想定最大規模の雨量（1000年に一度を想定した降雨量）に至るケースが頻発し、市民レベルの防災意識向上が急務となっている。また現在のハザードマップでは「橋梁流失リスク」が未評価である

ことから、市民参加で身近な橋梁のリスクを調べるワークショップを実施することで理解を深める。この登録データはデジタルアースに集約しており、長期では、オープンサイエンスの観点から情報集約・公開のモデルとして位置付けられることを期待している。今期は特に、ESD(持続可能な教育)からのニーズに応えられるよう「X-Bridge」を進化させ、オープンソース化への準備を行う事で、ワークショップを実施する都度デジタルアースに橋梁×防災に絞ったデータを集約していける状況を整備する。その事例をまとめ・考察・発表し、ひいては他分野への広がりやデジタルアースの可能性を訴えかける事例化を目的とする。

研究課題番号：IDEAS202207

研究課題名：ドローンにより収集した熱赤外面像および可視画像から生成したバーチャルリアリティ(VR)空間を用いた空き家現地調査の効率化に関する検討

研究代表者：秋山祐樹(東京都市大学)

研究概要：本研究は昨年度からの継続研究として、ドローンによって収集した熱赤外面像および可視画像から生成した都市のバーチャルリアリティ(仮想現実：以下「VR」)空間を用いて、空き家現地調査の効率化を検討する事を目的とする。今年度は、昨年度までの撮影成果(福岡県大牟田市)を用いて高精細な3Dモデルを構築しVR空間に展開した。続いて、VR空間内で複数の被験者による現地調査を実施し、建物ごとに空き家・非空き家判定を行い、その結果を自治体が行った調査に基づく真値と比較して精度検証を行うとともに、VR空間を用いた空き家現地調査の利点や課題、限界などを明らかにした。

研究課題番号：IDEAS202206

研究課題名：公衆衛生分野におけるオープンソース・インテリジェンスの有効性の検証

研究代表者：安納住子(上智大学)

研究概要：本研究は、熱中症に関連するTwitterの投稿文、救急搬送サーベイランスデータをもとに、深層学習を用いて、(1)ツイートの事実性分類、(2)熱中症発生リスクの予測、(3)公衆衛生学分野におけるオープンソース・インテリジェンス(OSINT)の有効性を検証する事を目的としている。

カテゴリ 2：問題複合体の具体的事例への取り組み

2-1：防災・減災情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202212

研究課題名：デジタル急峻地形（2）

研究代表者：井上公（防災科学技術研究所）

研究概要：平面上のコンターあるいは等間隔グリッドの標高や色属性等で表現される従前の地形図やデジタル標高・画像データは、斜面崩壊や転落などの危険性の高い、したがってより多くの情報を必要とする急傾斜地ほど、逆に情報量が少ないという問題がある。この問題を解決するオーバーハングも含めた任意形状の3次元形状・画像データベースを構築することを目指し、そのためのデータの取得、処理、データベース化、およびユーザー参加・自己発展型のシステムを構築することが本課題の目的である

研究課題番号：IDEAS202211

研究課題名：地震災害予測のための地球観測データのデジタルアースへの適用—地震活動と地殻変動の関係性の解析—

研究代表者：長尾年恭（東海大学）

研究概要：地震活動や地殻変動など、地震災害予測に資する様々な解析結果を中部大学のデジタルアースサーバ上で常時リアルタイムモニタリングできるサービスを開発し、防災・減災に貢献することが本研究の目的である。これまでの研究では2011年東北地方太平洋沖地震でも地震前の前兆的な変動が見られた地震活動の指標であるb値の時空間的マッピング（2014年度より）、GNSS観測点データを使用した地殻変動のモニタリング（2015年度から）などを行っており、昨年度は地震が発生した際に、それが前震であるかどうかを確認する手法であるb値を用いた信号機モデル（Gulia and Wiemer, 2019）を用いて活断層の地震活動度と地震の切迫度を可視化するシステムを開発した。

研究課題番号：IDEAS202210

研究課題名：アジアの活断層図のデジタルアースへの投入と利用サービスの向上：アジアのメガシティ地域を中心に

研究代表者：中田高（広島大学）

研究概要：活断層研究の専門家が作成するアジア全域の詳細な活断層分布図とそれに関連する情報をデジタルアースに投入し、その効率的かつ広範な利活用を可能とする方策を検討しようとするものである。メガシティは都市的地域や都市圏人口が1,000万人以上の都市部であり、人口が多いのみならず、社会的・経済的あるいは政治

的な機能が集積する重要な地域である。アジアのメガシティの中には、耐震性の高い都市構造ではないものもあり、大地震に襲われると甚大な被害を受ける可能性が否定できない。そのため、土地利用や人口分布などの観点から活断層から発生する地震の影響について検討するものである。このような活断層の位置・形状およびそれに関連する膨大な情報を、拠点研究者との共同研究によって、一般の人々がデジタルアース上で容易に把握しその危険性の理解を促すために必要なデータの投入および利用サービスのあり方を検討し、その実現を目指す。

## 2-2：環境、エネルギー情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202215

研究課題名：リモートセンシングデータを活用した沿岸域の地域資源利用のための  
研究代表者：米澤千夏（東北大学）

研究概要：沿岸域は陸域と海域の境目であり、その持続可能な管理は経済面からも生物多様性保全の面からも問題複合体として捉えることができる。本研究では持続可能な沿岸域管理の事例として特に牡蠣・真珠の無給餌養殖に着目し、デジタルアースの活用事例として適正沿岸管理という問題の解題を目指す。養殖海域における適正な養殖量を推定する上での課題は、水環境や流域の土地利用などのデータは入手可能であるものの、生産に関するデータ（台数・空間配置・生産量）が不足しているという点である。ここで、本研究ではまず養殖筏の配置と大きさを人工衛星画像・ドローン空撮画像の解析により特定し、養殖筏のデータベース構築を行うこととした。加えて、SDGsの観点からその筏で使用される林木需要と沿岸陸域からの林木供給の可能性を検討し、持続可能な社会実現のための地域資源有効利用について考究する。調査対象は、牡蠣の養殖地である岩手県広田湾と真珠・牡蠣の養殖地である三重県英虞湾周辺とした。

研究課題番号：IDEAS202214

研究課題名：市民の健康・環境コミュニケーションに資する熱環境に着目した公共空間のIoT化

研究代表者：安室喜弘（関西大学）

研究概要：近年の暑熱環境の悪化は、益々社会的な問題となり、熱中症被害数は増加している。暑さ指数の予報や警告は都市県単位で発せられるのみで、屋外の市民生活環境においては、時間的・空間的に、細かな粒度で暑熱リスク情報を知る手段が遍在的に望まれる。本研究では、日照や陰影の分布を大域照明 (GI:global illumination)



による光学的計算で CG 化して WBGT (Wet-Bulb Globe Temperature) を推定・可視化する手法を提案している。さらに、実時間で GI 表現可能なゲームエンジンを援用し、WBGT 推定に必要な基本気象情報をデータベース化する機構も組み込み、誰でも即座に暑熱リスクを視認できるシステムを開発した。

研究課題番号：IDEAS202213

研究課題名：空撮画像を用いた樹種判定手法の基礎技術に関する研究

研究代表者：林希一郎（名古屋大学）

研究概要：本研究では、都市部の広葉樹等（一部針葉樹）の空撮画像を用いて、樹種分類モデルの作成のための基礎技術に関する研究を行う。手法としては、将来的な UAV 画像の高解像度化を見越し、ポールカメラ等を用いた上空空撮及びトレーニングデータの作成とともに、深層学習を用いた分析により樹種判定手法の基礎技術を検討する。将来的には、森林調査を通じた炭素ストック量広域推計手法に組み合わせることを想定しており、当該森林情報に関連する基礎データ整備も併せて推進する。

## 2-3：その他持続的発展に関する情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202219

研究課題名：流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究—流域圏ステークホルダーとの協働に向けて—

研究代表者：水木千春（三重大学）

研究概要：本研究では、地域を河川の流域圏を単位として捉え、ローカル SDGs の推進に寄与する評価モデルを構築を目標とする。そのために、これまでの研究では、流域圏単位で地域の基礎情報を入手・比較するために、「流域圏自治体」という概念を用いて、行政機関や市民団体の SDGs 活動の達成度理解および活動促進に貢献できる評価モデルの検討をおこなってきた。今年度は、同モデルの検討に加えて、社会実装に向けた地域対話の実現を目的とし、櫛田川流域圏を対象地域に選定し、域内のステークホルダーとの協働によるワークショップを開催した。

研究課題番号：IDEAS202218

研究課題名：都道府県内の人間の安全保障指標（HSI）の開発と DE 技術の適用—SDGs の実践の効果的な計測のために—宮城県から愛知県へ

研究代表者：峯陽一（同志社大学）

研究概要：本研究では、人間の安全保障指標の〈宮城モデル〉を完成させて、全

国各地のローカル SDGs 指標の作成に役立ててもらふ事を目的とする。そのために、地図を満載した書籍を出版し、モデルの普及に努める。また、モデルの最初の応用として、愛知県における人間の安全保障指標を作成する。愛知と全国をオンラインで結ぶ勉強会を開催するとともに、愛知県庁、愛知県内各地の市町村等を訪問する。

研究課題番号：IDEAS202217

研究課題名：ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究

研究代表者：田開寛太郎（松本大学）

研究概要：ローカルSDGsを担う活動団体、事業者、その予備軍であるユースについてESDの枠組みを社会実装していくことが必要である。そこで、自治体のSDGs指標やデジタルアース環境情報を用いた「見える化」した地域状況「地域SDGs状況評価データセット（基礎自治体指標データベースツール）」に基づく議論プログラムを試作し活用することを本研究の目的としている。具体的には環境省EPO中部の中部地方ESD活動支援センターネットワークの行政の担当者や時代を担うユースの参加により議論の場を設営実証し、ESDフレームとしても用いることができる、実務に応用することを見据えた施策形成議論に資する実装可能なプログラムを構築する。

研究課題番号：IDEAS202216

研究課題名：ドローン固定翼機をもちいた有明海の絶滅危惧種スナメリと人為的活動の動的競合の可視化

研究代表者：森村成樹（京都大学）

研究概要：2021年日本領海の13%が海洋保護区となり、「2020年までに海域の10%を海洋保護区等として保全する」とした愛知目標が達成された。同年、G7サミット（イギリス）における「2030年自然協約」は、2022年生物多様性条約締約国会議（COP15）での「30by30目標」合意へと拡大し、生物多様性保全の主要な目標となった。2030年までに陸域・海域ともに30%を自然環境エリアとして保全する約束であるが、社会実装するには課題も多い。本研究は、生物多様性保全デジタルアースを推進し、VTOLドローンを用いて広域・高頻度・高精細で体長1m以上の海生動物と船舶を記録し、可視化することで時空間的な共存の意思決定を支援するサービス構築を目指す。

#### 2-4：感染症対策に関する情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202221

研究課題名 : アジアにおける新型コロナウイルス感染症の現状とその対策  
研究代表者 : 佐藤将 (東京外国語大学)  
研究概要 : これまでの新型コロナウイルス感染症研究は疫学分野を中心とした研究が多く、社会科学視点からの感染症への影響に関する研究は少なかった。しかしデータが揃いに従い、「ワクチン外交」と呼ばれる、ワクチンの背後にある政治的意図を解明する動きも見受けられるようになった。以上の流れを受けて、UNICEF データを用いてアジア地域の新型コロナウイルス感染症ワクチンの寄付状況を可視化を行い、「ワクチン外交」に関する地政学地図を作成する。この地図を用いてワクチン寄付を通じたアジア地域の地政学について論じることが本研究の狙いである。

研究課題番号 : IDEAS202220

研究課題名 : 感染症パンデミックの時空間ダイナミクス解析

研究代表者 : 佐々木真 (日本大学)

研究概要 : 新型コロナウイルスの空間伝播特性を理解することを目指す。特に、都市間の人流移動を考慮し、都市毎の感染爆発の様子を再現する数理モデルを開発する。

#### 一般研究

研究課題番号 : IDEAS202232

研究課題名 : ドローンを用いた大気流速場の局所計測

研究代表者 : 山田琢磨 (九州大学)

研究概要 : 地表面近傍 (~100m程度) の大気の流れ場は、農業、大気汚染、ビル風による突風などで我々の生活・環境に直結している。これらの解明には、地表面近傍の三次元的な大気の流れ場を得る必要がある。しかし、衛星観測装置からの測定では分解能が悪く、また地上の測定装置であるドップラー・レーダー等は、広範囲の流れ計測を目的にしており、局所の流れ計測には不向きである。そこで、本研究では、現在普及が進んでいるドローンに着目した。ドローン搭載のセンサー群から局所的な大気の流れ場を三次元的に求めることを目的とする。地表面近傍の大気流れに関する問題のより効果的な対策を得ることを将来的に目指す。

研究課題番号 : IDEAS202231

研究課題名 : 準天頂衛星の高精度測位機能利用方式に関する調査研究

研究代表者 : 牧野秀夫 (新潟大学)

研究概要 : 防災・減災情報サービスにおける正確な屋外位置情報（デシメータレベル）を提供するためには、センサとしての高精度衛星測位技術と閲覧用 GIS との連携(専用のデータ変換)が必要である。そこで、従来の静止衛星に代わり 2020 年 11 月から運用が開始されている準天頂衛星による測位補強信号を利用した調査研究を共同研究として実施するものである。デジタルアースでの位置づけとしては、正確に個人の現在位置を把握するための高精度 GNSS 測位システムの開発及びデジタルアース上で統合するためのデータの収集・蓄積と医療・福祉・防災分野への応用である。

## 5. 2. アジアサマースクール

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の流行によりアジアサマースクールは中止となった。しかし、アジア工科大学院（AIT）の担当教員と議論の機会を設け、来年度（2023 年度）にはサマースクールの現地開催を予定する事となった。

中部高等学術研究所 年報 2022 年度

---

2024 年 2 月 29 日 発行

編集・発行

中部大学 中部高等学術研究所

〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200

<http://de18.digitalasia.chubu.ac.jp/>

